

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

兵庫県 神戸市立大沢中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ



2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 西内 洋行 先生 (トライアスロン) 【出場オリンピック / シドニー大会、アテネ大会】

■ **期 日** : 2021年12月17日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- ・2000年シドニー大会、2004年アテネ大会にトライアスロン日本代表として出場したと自己紹介を行った後、トライアスロンについて、水泳1.5km、バイク40km、ランニング10kmの3種目を連続で行う競技であると説明し、準備体操に移る。
- ・ストレッチを行った後、準備運動として、体育館全体を使用したランニングを実施した。

○ 主運動 等



- ・主運動として、トライアスロントランジションリレーゲームを実施。
2班に分かれ、5m先のトランジションエリアまで靴を脱いで、帽子を手に持った状態で進み、同エリアで靴を履き、帽子を被る。その状態で自転車の代わりにフラフープを手に持って走り、折り返し地点のコーンを回って同エリアまで戻り、フラフープを置き、靴と帽子を脱いでスタート地点まで戻る。最終走者がスタート地点まで戻り、全員が座って手を挙げた段階でゴールとして、各回の間に作戦タイムを設けながら実施した。



- ・運動の時間を振り返り、記録を伸ばすためには、それぞれが何秒縮める必要があるのかなどを考えながら実施してもらったが、運動に限らず、目標に向かってあとどれくらいなのかを明確に考えることで、より目標に向かう取り組みに集中することができる話す。
- ・座学の時間では、自身の経験を踏まえ、オリンピックについて紹介し、皆でオリンピックバリューについて考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 西内 洋行 先生 (トライアスロン) 【出場オリンピック / シドニー大会、アテネ大会】

■ **期 日** : 2021年12月17日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・運動の時間に伝えたオリンピックバリューの3つの価値について覚えているかを生徒に問い掛け、オリンピックについて紹介し、オリンピックバリューをさらに掘り下げて考えていきたいと伝え、授業の目的を確認。
- ・近代オリンピックは1896年にクーベルタンによって、世界で起こっているいがみ合いをスポーツを通して解決することを目的として創設されたことや、オリンピックシンボルは五大洲を表しており、使用されている6色でほとんどの国旗を描くことができること等について説明。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



- 発問：運動の時間の中にあつたオリンピックバリューを書き出してみよう。
 発表：エクセレンス：「目標タイムを決めた」「走る順番を変えてみた」等
 フレンドシップ：「最後まで応援した」「仲間への声掛けができた」等
 リスペクト：「お互いを理解して走るのが苦手な人を得意な人で挟んだ」「お互いを理解した」等



- ・現在取り組んでいるアイアンマンレースの映像を紹介し、スイム3.8km、バイク180km、フルマラソン42.195kmで構成されている競技であると説明。
- ・座学の時間を振り返り、クーベルタンは、大事なことはオリンピックで良い成績を収めることではなく、オリンピックに出場することに意義があると唱えているように、良い成績を収めるためには、どのような努力をしたかが重要である。スポーツだけではなく、日常生活でも目標を達成すれば良い、ということだけではなく、目標を達成するために、どのようにすれば良いかを明確に考え、行動に移してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年1組



■ 記念品贈呈

・2年1組



■ 修了証贈呈

